

第42号

発行
北九州地区
信徒使徒職協議会
会長 追立 泰治
編集
北九州信徒協広報部
担当司祭 深堀勝人
担当委員 瀬下幸弘

カトリック 北九州地区

信徒協だより

News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

主な内容

- 1面 教区信徒協研修会
- 2面 教区信徒協研修会
釜石ボランティア活動
- 3面 平和の集い実行委員会発足
- 4面 カン・ウイル司教講演⑤
- 5面 司祭と信徒の懇談会
共同回心式日程
- 6面 2・11信教の自由集会
ニュースあれこれ

教区信徒協 研修会

シエガレ神父を迎えて

福音と平和のつどい

2月11日
大名町で
開催

参加者は300名を超え、プロテスタントの牧師・信徒や他教区からの参加もありました。宮原司教の講話・パリミツシヨン会のシエガレ神父の基調講演を聞き、9つの分科会で福音を分かち合い、学びました。

【追立会長報告】

教区信徒協と社会福音ネットワーク・福岡主催の「福音と平和の集い」が大名町カテドラルで行われ、午前中は、宮原司教の講話・パリミツシヨン会のシエガレ神父の基調講演、午後からは約2時間半の分科会がありました。

宮原司教は、教皇フランシスコの回勅「ラウダート・シ（主に賛美）」を通して、環境と私たちとの関わりについて話されました。シエガレ神父



講演するシエガレ神父

は、「社会と時代に生きる教会の福音的な取り組み」と題して、小さな人々の視点に立って、希望の中に福音を生きていくことを丁寧にわかりやすく話されました。午後は、福島問題・困窮者支援・憲法問題・水俣問題・沖縄問題・従軍慰安婦問題・不登校問題・女性と子どもとの問題・シエガレ神父を囲んで・の9つの分科会が準備され、各自希望する分科会に参加しました。参加者からは、「参加して良かった」「この分科会で良かった」等の感想をいただきました。

今回信徒協と共同主催となった社会福音ネットワーク・福岡は、一昨年9月に開かれた正義と平和全国集会の意向を受け継ぎ、昨年8月に発足し、今回の企画・運営を担当しました。今後も教区信徒協と共に、小さな人々の視点に立ち、「いのちを大切に

参加された方々の感想

【光丘教会 2人の信徒】

・シエガレ神父様の平和、正義等のお話が素晴らしく、四旬節のよい黙想となりました。

・分科会は困窮者支援に参加、担当の方々の熱のこもったお話に引き込まれました。

【行橋教会 井上千鈴】

・シエガレ神父さまの講演は、実に主の御恵みのようなメッセージでした。福音の本質を示す、義、憐れみ、平和のヘブライ語の本来の意味を教えられました。まさに、とくを得てなされる神の御業のよきを得てなされる神の御業のよきで、私たちは恵みの時を生きています。分科会は「慰

安婦問題」に参加。「終わらない戦争」を見、慰安婦にされた方の証言を聞き、目を覚ました。この人権問題が、国家間の政治問題として扱われてきたことで他人事として遠ざけてしまったのではないのでしょうか。講師の池田道子さんが、今後の行動を示唆してくださいました。元慰安婦の方々に寄り添い、その痛みを自分の痛みと感じる人が多くなると、政府も謝罪せざるをえなくなるのではないのでしょうか。この分科会に、予想以上の人が参加されたことは、希望のしるしです。

・森山神父さまがアメリカ連邦議会での教皇さまの演説の

(二面へ続く)

2015年 年末愛の募金集計

11/29~12/25

北九州地区9教会の総計

1,070,736円

12/6~13、年末愛の献金活動を行いました。「みなさんに多くのご協力を頂きました。(天神町信徒談)」

(1面続き)

ことを紹介されました。神は生きて今日も働いておられる、神さまの引き起こされるダイナミックな渦にのまれて、今を生きていると感じた実り多い一日でした。

【門司教会 平松修實】

福島問題に参加しました。サブタイトルが「福島原発事故後の現状と我々の関わり」でしたので支援の在り方に議論が及ぶものと思っていましたので、少し期待はずれでした。でも、どのような活動であつても、被災者に思いを寄せ、被災者につながる行動は、被災者を元気づけるし、自分も元気になります。生きるって、他者につながることに他ならないからです。ある仮設住宅自治会長の子が『ナニカオテツダイデキマセンカ』とボードを差し出した。私は涙を流しながらボードに書いた。『あなたが来て、ここに居てくれるだけで私は嬉しい。』それこそ被災者と共に生きることと思う。

【黒崎教会 信徒】

憲法分科会に参加しました。Sr.山本きくよさんのさわやかな歌声から始まり、教会と社会は分けられるものではなく、信仰を生きていることは、イエスの物差しで人生を選び取っていくことと話されました、とても目

の覚めた思いがしました。また、「あたらしい憲法のはなし(復刻版)」を紹介され、日本国憲法が男女平等や自由や命を大切に、福音的なものであることを語られ、新鮮な喜びを感じました。それから今の改憲への動きを、分かりやすくライオン(政治権力) 檻(憲法)、檻の外にいる私たち(主権者) の例で話されました。昨年9月に集団的自衛権を認めてしまいました、ライオンが自由になるに鍵を渡してしまつたように思えて、とても危機感を覚えました。今年の選挙は18歳からなので、戦争に孫を送らないように機会があることに若い人に語っていかうと思いました。シスターの言われたように、誰かに言われて従う日本人の体質を改め、ひとりひとりが神の望みを考え、行動を起こしていく時なのだと感じました。日本が曲

(3面下段)

憲法問題分科会講師のシスター山本紀久代(援助修道会)



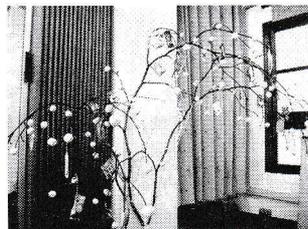
カリタス釜石のボランティア活動に参加して

(黒崎教会 高瀬紀子)

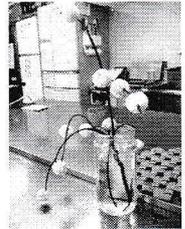
カリタス釜石は「傾聴」の里という言葉が似合う、優しい交わりの場所でした。

季節は小正月、素朴な味の「みずき団子」を地元の方々から教えられ、おからと団子粉を混ぜて食紅を入れ一緒に練り上げました。釜石教会内のフィリア(お茶っこ)は、みずきの木に花が咲いたように団子が飾られ華やかに彩られました。また仮設住居で暮らされている方も干し柿をつくり、手芸や編み物など手の込んだ暖かな作品を作られていました。漁師の方はドンコという魚を寒風に干されドンコ汁やサメの味噌合など、風土にあった料理を教えてくださいました。

釜石の方々が季節の行事を大切にされ、豊かな大地と海の恵みのうちに生活されてきたことがよくわかりました。その美しい自然の中で自給自足を柱に営まれてきた生活が、あの突然の大震災で家も家族ものみ込まれ、生き方を変えざるをえな



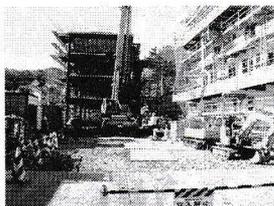
みずき団子



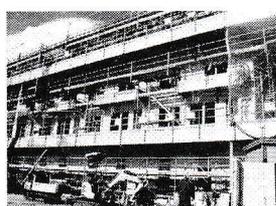
くなったのです。そして今、仮設住居から住居費負担のある復興公営住宅への転居は、これまでの仮設での絆をほどいて新たな環境へと変化させています。様々な事情を抱えながらの模索が始まっていました。

「～よりそい～つなぐ～いのち」を大切にするカリタス釜石の働きは、甚大な被害にあった被災者の方々の心によりそって、震災直後の混乱を極める時期から、孤独や孤立化を防ぐよう希望という小さな種を蒔き続けていらっしやいました。

それは5年近くたった転居に至る今でも、多くの釜石市民の方々を底辺から支え続けておられます。傷つき先の見えない不安を抱えた方々の傍らに立ち、ともに寄り添い心の叫びを聞かれ続けておられる…、私はそこにイエスの姿を見た思いがしました。



建設中の公営住宅



第16回「北九州平和の集い」実行委員会が発足

「北九州平和の集い」は、日本カトリック平和旬間期間中に開催しています。信徒協社会福音部会(担当/深堀勝人神父・岩本ナセ)が窓口となり、集いのための実行委員会が2月28日(日)にカトリック湯川教会にて発足します。平和の集いを準備するにあたり、担当司祭の深堀神父よりその方向性を示して頂きました。



平和の集い担当司祭

深堀勝人神父

(カトリック湯川教会主任司祭)

第16回「北九州平和の集い」開催にあたって

《いつくしみの特別聖年》

信徒使徒職活動をされているグループが一同に会し、それぞれの歩みを確認し、新たなし、支え合い、また、北九州地区の参加できない人も互いに理解し合い、ともに同じ信仰の中で生きるキリストの神秘体として、ともにその使命と役割を新たに歩めるようにと願っています。

そして、キリストの平和、個人と共同体、共通善、社会正義など、立ち止まって考える機会になればと思います。そこには個人の尊重とともにすべての人々の社会的安寧と平和(安全)を願えればと思います。

わたしたちが立ち止まって、キリストの平和について考え、日々の生活の中で、平和を

現して行くことができまうに祈っています。

また平和の集いが行事になるのではなく、平和を実現するための一助になるように、その日に向けて、呼びかけ、祈り、支え合いと励ましの一助になることを願っています。さらに《いつくしみの特別聖年》—御父のようにいつくしみ深く(聖年のモットー)を心に留めながら、古いながらもつねに新しい祈り、サルヴェ・レジナ(元后あわれみの母)

《元后、あわれみの母、われらのいのち、喜び、希望。泣きながらも 涙の谷にあなを慕う。われらのためにとりなすかた、あわれみの目をわれらに注ぎ、とうといあな

たの子イエスを旅路の果てに示してください。

「主よ、思い起こしてください。あなたのとこしえのあわれみといつくしみを」(詩編25・6)

「平和旬間」とは

日本のカトリック教会は、教皇ヨハネ・パウロ二世が、核被爆地・広島と長崎で「平和アピール」を発表されたことに、特別の意義と使命を感じ、平和への努力が「日本のカトリック教会の使命」であると確信した。この確信を実行にうつすため「平和旬間」(8月6日〜15日)を設定し、今後も継続して行われ、実を結ぶため、日本のカトリック教会の行事として定める。

「過去を振り返ることは、将来に対する責任をになう」という教皇のことばにならない、戦争と平和について考え行動するため、小教区、各教区で、具体的な行動計画が立てられ、実施されることが望まれる。

(2面からの続き)

がり角に立たされている今こそ、日本国憲法をしつかりと読み、安保法の本質をつかみ、キリストの平和への道を選んでいきたいと思いた。

シエガレ神父の講話から

「福音の中心をどこに置くのか」を力説されました。

福音は、イエスの生き方を通じて現れた「神の隣れみ」「神の義」「神の平和」がキーワードであり、これを切り離さずに結びつけて考えていくことが大切です。そしてこの3つを正しく理解し、考へ、身につけることが福音的な取り組みの原点。そしてそれを生きたら、現実の中でより良い社会の完成のために貢献していく生き方がポイントです。福音の視点は社会との関わりの中にあります。教会は弱者の視点に立ち「権力者の正義(ゆがんだ構造)」を福音の視点から問いかける必要があります。現代社会の矛盾を指摘して取り組むことは、教会の福音的な課題です。

(編集部)

正義と平和全国集会福岡大会

カン・ウイル司教基調講演

⑤

二〇一四・九・十三

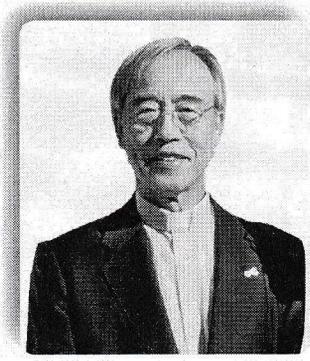
文責／編集部

東アジアの平和と福音的展望

韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢観ながら

「南北間の戦争勃発」

この戦争のために4・3事件に何らかの関連あった人たち、4・3事件で殺された人、あるいは行方不明になった人たちの家族たちがみな危険人物と見做され、そしてすぐに敵に協力できる可能性を持つグループと見做され、捕えられ、あるいは射殺されました。停戦後の54年までに済州島民の3万人が命を落とし、こういう中で多くの島民が島を離れました。韓国本土や日本まで。済州島民は昔も今も韓国人口の1%程度です



が、日本にいる在日韓国人の中で済州島出身者は10%です。済州島民たちは生き延びるために国を捨てました。島に残った4・3事件で生き延びた遺族たちも連座制適用によりかなり長い間「アカ」というレッテルを貼られ生涯正

常な社会生活が出来ませんでした。数年前にも集団虐殺された犠牲者たちの屍が済州市内の国際空港滑走路の片隅で発見されています。

2013年暮「東アジアの平和を考える国際シンポジウム」で私は軍港建設反対の出発点として済州島の4・3事件について話しました。話が終わって参加者の一人が私のところに来て言いました。

「自分は、日本で牧師として働いている在日2世ですが、話を聞いて大きなショックを受けた」ということでした。彼のお父さんは済州島出身

で、普段ふるさとのことについてほとんど何も言ってくれなかつたそうです。でも子どもの時から、お父さんがいつも何か言おうとしていて、心のなかに何かを押し殺しているようだったこと、夜、夢を見ながらうなされている様子をたびたび見て育ったそうです。そしてお父さんが亡くなる前に、もし君が済州島に帰る内空港を通って入るなと話していたそうです。何故そう言うのか、不思議に思ったのですが、私の話を聞いて、父が済州島を離れる前、空港付近で集団虐殺が行われ、そのまま葬られてしまったことを知っていたようです、と言ってくれました。

済州島の4・3事件の犠牲者が出た場所を地図で確認すると、ほとんど島全域域にわたっており、ある村によっては住民が百数十人ずつ同じ日に虐殺され、今でも村の住民はその命日に共同で供養をおこなっています。私のいる司教館から数分のところにある谷間でも数百人が殺されました。4・3事件勃発当時の済

州島の人口は28万人程度ですから、3万人が殺されたということは10%以上の人が犠牲になったということです。犠牲になった人たちの85%が左翼思想とは何のかかわりもない普通の民間人、農民、女、子ども、老人でした。そういう民間人が正当な捜査や裁判による法的手続きなしに処刑されました。これは国家が国民に行つたことです。4・3事件はたしかに左翼武装勢力が警察署を襲撃したことに触発されて起こりましたが、その対応において、国家権力は武装ゲリラ以外の民間人を無差別に虐殺しました。これは、いわゆるジェノサイドと呼ばれる犯罪であります。戦争中であってもこのように民間人を集団虐殺するのは戦争犯罪、戦争ではなく犯罪であり、それは国際社会においても厳しく責任を問われます。

ユダヤ人虐殺に加担した人たちは今でも戦犯として国際社会から指名手配されています。ドイツ政府もこれに協力し、追いかけています。ところが韓国政府は、自国民が3万人も集団虐殺されたにもか

かわらず、事件のあと50年近く沈黙を強要し、真実を明らかにさせなかつたために、今でも韓国の国民の90%はこの4・3事件の真相についてあまり知らず、責任を感じる人がいない、良心の呵責を感じたり償いをしようとする人もいないのです。これは本当に悲しい現実だと私は思います。その歴史的犯罪の無知と無責任のゆえに、韓国政府が、依然深いトラウマと怨念の中に生きています。済州島に巨大な軍事基地を、何事もなかったかのように建設しようとしていることは、許せない、恥じるべき罪悪であるとい、しか言いようがありません。それが基地建設反対の本当の理由であります。50年の沈黙を破って、2000年8月28日、金大中政権になり、韓国政府は正式に「済州4・3事件真相究明・犠牲者名誉回復委員会」組織を発足させ、03年には大統領がその委員会の調査報告書に従って、国家権力によって大規模な犠牲者が出たことを認め、公式にその遺族たちと済州島民たちに謝罪文を発表しました。(次号)

司祭の皆さんと信徒の懇談会

1月17日
小倉教会

テーマ「明日の教会を考えよう」

懇談は追立会長の挨拶からスタート。「一月にこのような懇談を開くようになって十二回目となります。テーマは「明日の教会を考えよう」です。ざっくりばらんに語り合い、イエスの望まれる教会をみんなでつくっていったらいいと思います」。続いて信徒を代表して門司教会の中本会長が発題しました。子どもに、教会へ行こうと言いつけたりしているが、何とかなだめながらやっている、こういうことを踏まえてもう一度皆さんにも振り返ってほしいと次の点を提案されました。

- ①教会に来る人が減っているのは休みが取れない人が多いのでは
- ②子どもたちにもどのような教育をしてきたのだろうか。塾優先など
- ③教会内の人間関係で苦しんでいる人がいるのでは。こういった方たちを呼び戻せば広がると思う
- ④その他、幼稚園との関係、地域との積極的交流、教会奉仕が強制にならないような配慮が必要：等を発題し、それを受けて参加者か

ら次のような意見が出されました。
・家庭での信仰伝達が一番難しいのではと思う。しつけよりも信仰の喜びを伝えたいと。
・信者になるというのは「その教会共同体の一員になること」と教えられた。受洗後思うに「典礼」はあるが「共同体」を感じない。禁止事項、制約が多いようだ。許可がないと何もできない。施錠された信徒会館。教会がまず信徒に対して開かれたものであつてほしい。また街頭募金活動でも教会委員が積極的に前向きになるようになってほしいと思う。少なくとも信徒自らが「教会に行ってみよう」と思う様にならない。魅力ある共同体にならない。

・北九州に赴任して6年。平和の集いで感じたのは、参加する教会が固まってきたようで寂しさを感じる。昔は信心会が共同体を作っていた。今使徒職グループが活動しているが理解されていないのでは。やはり無関心がいけない。現代社会は教会というより神を必要

としない風潮、神離れのような。司祭たちは幼稚園や教会兼務が多すぎて動きにくくなっているが、いい共同体が作れるようにと願っている。
その他、・幼児洗礼の減少など問題点は出てくるが原因究明までいつていない。・家庭で神の存在が遠ざかっている。・教会に行きたくても行けない人をどうするか。・昔は受け入れ態勢が整っていたようだ。・神を感じることを学ぶ機会が教会にあるだろうか。・やはり無関心が大きい。原点に戻って考える必要がある。・楽しめる教会にしたい。・信徒の皆さんと一緒に歩むことが司祭としての喜び。・小教区の中心は司祭でなくイエス。明日の教会を考えようと1998年から討議を重ねてきている。大切なことは祈り方よりも「今の生活が祈りになるように」すること。・皆さんの意見と同じことを感じた。イエス様を体験することが信仰だと思う。

◆◆◆
◆◆◆
◆◆◆
◆◆◆

「資料を見ると小教区は、教会内だけを指すのではなく、もっと広い意味のようだ。従来のイメージを考え直さねば」という意見もありました。一考に値するようです。

四旬節 共同回心式日程

日付	教会名	時間
2月26日(金)	水 巻	10:00,19:30
2月26日(金)	若 松	— 19:00
3月1日(火)	直 方	10:00,19:00
3月2日(水)	新田原	10:00,19:00
3月4日(金)	戸 畑	10:00,19:00
3月5日(土)	田 川	10:00,18:00
3月7日(月)	天神町	11:00,19:00

日付	教会名	時間
3月8日(火)	黒 崎	10:30,19:00
3月9日(水)	湯 川	10:30,19:30
3月9日(水)	豊 津	— 19:30
3月10日(木)	門 司	10:30,19:00
3月11日(金)	行 橋	11:00,19:30
3月16日(水)	小 倉	10:00,19:00
—	飯 塚	ミサ前 (個別のゆるしの秘跡)

北九州地区キリスト教超教派で祈りと学び 2016年思想・信教の自由を守る2・11集会

テーマ いま崩れゆく平和…希望を求めて

川本 牧師



4年連続で開催されたキリスト教超教派による集いが、小倉北区の西南KCC(西南韓国基督教会会館)で開催されました。参加者はおよそ40人。日本基督教団、在日大韓基督教会、日本キリスト教会やカトリック教会、市民が共に学びました。

朱 牧師



午前10時半の開会祈禱の後、聖書研究から始まりました。担当は朱文洪(チュウモン)牧師(在日大韓基督教会小倉教会)。

イエスが荒れ野で誘惑された箇所(マタイ4章・ルカ4章)を読みながら二つの福音書の意味、石をパンに変える誘惑とは? 神殿から飛び降りるよう要求する誘惑の意味、悪魔にひれ伏すことなどについて、現代社会の具体的な事柄に照らし合わせて丁寧に解説しました。

最初の発題者は川本良明牧師(教団日明教会)。「建国記念の日の由来」について資料を基に詳しく説明しました。特に二月十一日が戦前の紀元節として復活(1966年)したことで、これが何を意味するのか、また今後の影響について話しました。日本国民を戦争に導いた国家神道は解体されましたが、それは神社神道と国家の分離で、皇室祭祀と天皇祭祀に手をつけていない点をあげ、現在は国家神道の潜伏期が過ぎ、国家神道の啓蒙期に入ったのではと、私たちに警鐘をならしました。

続いている発題者、金貞子(キムサダコ)さん

午後10時半の開会祈禱の後、聖書研究から始まりました。担当は朱文洪(チュウモン)牧師(在日大韓基督教会小倉教会)。



金貞子さん

現実について語りました。「朝鮮人首吊り」も悪い韓国

人もみんな殺せ「ガス室に朝鮮人を叩き込め」など命を脅かすようなスピーチが平然と行われている。存在を消されたようなぞつとする思いを語った後、その背景は日韓関係の反映と言われていること、そこに日本人自身のアイデンティティに関わる問題が潜んでいることなど深く考えさせられる内容でした。

三番目は瀬下幸弘さん(カトリック20条の会)。日米安保と辺野古新基地建設問題を中心に、米軍基地の本土移設を含め、一人一人の立ち位置をどこに置くのかと問題提起。日本国民の1%の沖縄県民。8割の国民が安保を容認しそれによって平和だと思いつまされていっているのに、本土への基地は不要とし、沖縄のみに重荷を背負わせる矛盾をどう解決してゆけばよいのだろうか、と呼びかけました。

ニュースあれこれ

◆東日本大震災被災地支援

「わたしたちは忘れない!」をテーマに64回目となる「音楽と祈りの夕べ」が小倉カトリック教会で開かれます。とき/3月13日(日)。開場は14時30分、開演は15時〜16時30分終了。入場無料。大震災の記憶が薄れつつある中で、今回は「映像からのメッセージ」が用意され、被災地を忘れまいと多くの方の参加を呼びかけています。後援は、カトリック小倉教会とカトリック福岡司教区被災者支援室です。

◆エールとお祈りを

今年も3月20日(日)から24日(木)まで、福島南相馬へ新中学生、高校生、大学生(男子5名、女子2名)と引率者平松と桑野で出かけてきます。見て聞いて知って頂きたいと願っています。皆様この青年たちエールとお祈りください。(門司教会 桑野貴巳子)

◆駅で初の街頭募金(湯川教会)

北九州地区には年末街頭募金活動に取り組む教会がいくつかあります。湯川教会は、

街頭募金場所をJR下曾根駅前初めて行いました。教会担当者は、「駅利用者は限られますが、カトリック教会が募金活動を行っていることを知らせる意味でも『次回もお願います』と駅長に伝えました」と語っていました。

編集室の窓

*現代社会の現状をある方が次のように話されました。「小泉政権以降、新自由主義政策のもとで自己責任論が強調され始め、社会的セーフティネットが縮小されてしまった。いまでは自分で生きてゆけなければ孤独死してしまうという世の中になつてしまった。自分の関心事以外は無関心へと急激に変つた」。司祭と信徒の懇談の場(1月17日)でも「無関心」の問題が出されていました。ところが、教区研修会に参加された方々から寄せられた感想は、様々な事柄に関わつて新たな自分を発見する回心のおかげになつたようです。学び合い分かち合うことよって真理を社会に伝えることができると感じた二月でした。(瀬下)